

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### 1. 学則変更（収容定員変更）の内容

現在の学部、学科を見直し、社会の要請、産業界のニーズ、学生の要望に適切に対応できるように平成 29 年度から入学定員及び収容定員の変更を行うため、次のとおり学則を変更する。

① 経営情報学部 先端経営学科

現在の入学定員 70 名を 30 名減の 40 名とし、収容定員は 280 名を 160 名とする。なお、3 年次編入学定員 5 名は変更しない。

② 経営情報学部 システム情報学科

現在の入学定員 110 名を 30 名減の 80 名とし、収容定員は 440 名を 320 名とする。なお、3 年次編入学定員 5 名は変更しない。

③ 医療情報学部 医療情報学科

医療情報学科 入学定員 80 名は変更せず、同学科にメディカルヘルスケア専攻（入学定員 40 名）及び臨床工学専攻（入学定員 40 名）を設置する。

④ 情報メディア学部 情報メディア学科

現在の情報メディア学部 情報メディア学科入学定員 190 名を 30 名増とし、220 名とする。なお、各専攻の入学定員（メディアデザイン専攻 90 名）、メディアテクノロジー専攻 100 名）の設定を廃止し、学科としての定員設定とする。このことにより、収容定員 760 名を 880 名とする。

併せて、3 年次編入学定員をメディアデザイン専攻の 5 名、メディアテクノロジー専攻の 5 名の専攻別の定員設定を廃止し、学科の 3 年次編入学定員 10 名とする。

以上のことから、大学全体として、現在の 3 学部 4 学科 2 専攻の入学定員 450 名、3 年次編入学定員 20 名を 3 学部 4 学科 2 専攻の入学定員 420 名、3 年次編入学定員 20 名に変更し、30 名の収容定員減とする。

## 2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

北海道情報大学は、「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を建学の理念として平成元年4月に開学した大学である。我が国の国際情報化社会の進展に適応した幅広い分野の知識並びに情報学と経営学を融合した専門の学術を教授・研究するとともに、豊かな知識と国際的感覚を兼ね揃えた有為な人材を育成することを使命として経営情報学部を開設した。

情報化社会の急速な進展に伴い、平成6年4月には我が国では初めて通信衛星を利用した遠隔教育を取り入れた通信教育部を開設し、平成8年4月には大学院経営情報学研究科修士課程を設置した。平成13年4月には情報メディア学部を増設し、平成18年4月には改組改編により経営情報学部に医療情報学科を開設した。更に、平成25年4月には経営情報学部医療情報学科を改編し、医療情報学部を設置した。

北海道情報大学は、以上のような社会の要請、産業界のニーズ、そして学生の要望に応えるべく、学部、学科の改組改編を進めてきたところであるが、我が国は少子高齢化が一段と進む中、18歳人口は減少の一途にあり、大学を取り巻く環境はますます厳しくなる中で、本学の5年間の志願者数、入学者数は減少の傾向にあり、今後、現在の入学定員を充足する見通しは厳しいと予測される。

以上のことから、現状における志願状況、入学状況及び今後の見通しを反映した適切な定員への変更を行うものである。

以下に学部、学科ごとに具体的な説明を加える。

（経営情報学部）

先端経営学科は、経営学の基礎知識とITを利活用する手法の修得を通して、ビジネスの仕組みを学び、企業において業務・組織の仕組みの改革を推し進めるために必要な計画・分析・管理・運営に関する実践的な知識とスキルを身に付け、改革を推進する人材の育成が急務となっている。特に、デジタルビジネスに向けた改革を進めるために必要なモバイル、クラウド、インフォメーション&ビッグデータ、ソーシャルの4分野とIoTなど新しく革新的なものを中心とした幅広い知識の修得やこれからますます必要となる経営戦略とITの融合という時代の要請に則した学科として重要性が増している。

入学定員の充足状況は、平成22年・平成24年には入学定員を満たしていたが、平成25年：57名、平成26年：52名、平成27年：34名と入学者数が減少し、3年間の平均入学定員超過率は0.68となっていることから入学定員を見直し、上記のような社会の変化と要請に的確に対応していくため、入学定員を30名減じ、40名とする。

システム情報学科は、あらゆる分野で必要とされているICT（情報通信技術）をコア・テクノロジーとした知識とスキルを身に付けるとともに、コンピュータサイエンスやソフトウェアエンジニアリングなどの深い知識を修得し、多種多様な応用分野でその中心を担い得る高度な情報システムエンジニアの育成を目指している。なお、高度情報処理技術は、多くの分野で必要とされており、今後も必要不可欠な分野である。

入学定員の充足状況は、平成25年まで入学定員を満たしていたが、平成26年：79名、平成27年：80名と入学定員が減少し、直近の2年間の平均入学定員超過率は0.72

となっていることから入学定員を見直し、上記のような社会の変化と要請に的確に対応していくため、入学定員を 30 名減じ、80 名とする。

(医療情報学部)

医療情報学科は、現在の入学定員 80 名は変更せず、メディカルヘルスケア専攻及び臨床工学専攻にそれぞれ 40 名の入学定員を設定するものである。

#### (1) メディカルヘルスケア専攻

医療情報学を取り巻く教育環境は、近年の情報通信技術の急速な進展に伴い劇的に変化している。医療情報分野では、電子カルテシステムがほぼ普及し、医療情報分野ではハード面から医療情報解析などソフト面に教育目標の重点が移りつつある。特に、生活習慣病の増加に伴う健康情報に関するデータ量の爆発的な増大により、クラウドコンピューティングな活用など所謂ビッグデータを取り扱う人材育成が急務となっている。

この社会ニーズに応えるために、本専攻では、これまでの医療機関での診療情報分野に加えて、情報を基盤にしたヘルスリテラシー教育を提供し、社会全般において健康増進や疾病予防において活躍できる人材を育成するものである。具体的には、診療情報管理、食を基盤にした予防医療情報、生体情報関連のソフトウェア解析や健康アプリケーション開発の知識と技術について学ぶことを目的とする。

#### (2) 臨床工学専攻

今日の社会状況をみた場合、高齢化、疾病の多様化・複雑化、医療技術の高度化などに伴い、様々な事例に適切に対応できる医療専門職が求められており、高度な医療機器を適切に運用、操作できる医療技術者が強く求められている。

一方、18歳人口の減少や高学歴志向への対応など、高等教育を取り巻く社会情勢は急速に変化してきており、その方向性も複雑かつ多様化してきていることから、受験生の興味と関心や進学動向を踏まえた上で、学生の選択の幅や流動性を高めるとともに、多様な学習機会の確保への対応などに向けて、高等教育機関としての役割を発展的に推進する必要性が生じている。

このような社会の人材需要や受験生の進学動向などを踏まえ、医療技術分野の持続的な発展に貢献し、適切な地域医療体制の実現に寄与する必要があると判断し、本学の医療情報教育において培ってきた教育内容を更に充実させて臨床工学専攻を設置するものである。

なお、北海道内において臨床工学技士を養成している教育機関は少なく、1 大学、3 専門学校のみとなっており、北海道科学大学における臨床工学科(定員 70 名)の実質倍率は 10 倍以上で、専門学校 3 校(定員 40 名×3 校)も倍率が出て定員を確保している。また、上記大学及び専門学校の就職率は 100%となっている。

臨床工学技士は、血液浄化業務、人工心肺業務、呼吸療法業務及び生命維持管理装置の保守点検・安全管理業務など多岐にわたる業務で必要とされており、高度な医療には、高度な知識・技術を持った「臨床工学技士」の必要性が叫ばれており、4 年生大学の「臨床工学技士」要請に対する期待は大きくなっているところである。

(情報メディア学部)

情報メディア学科は、メディアミックスの重要性と可能性を重視し、映像・3DCG・グラフィック・ウェブなどの分野でICTを核にした新しい時代のコンテンツを創造し得るメディアデザイン系と利用者の発信した情報や利用者間のつながりによってコンテンツを作り出す要素を持ったインターネット・ヒューマンインタラクション・スマートフォンなどのユビキタスコンピューティング時代の中核となる関連新技術を修得して使いこなし、これらを元にまったく新しい技術やビジネスを生み出し得る高度IT技術者を養成するメディアテクノロジー系からなっており、時代のニーズに合った学科として重要性が増している。

入学定員の充足状況は、平成25年：205名、平成26年：188名、平成27年：236名で直近3年間の平均は210名で平均入学定員超過率は1.11となっていることから入学定員を見直し、上記のような社会の変化と要請に的確に対応していくため、入学定員を30名増やし、220名とする。

このようなことから、学部・学科の入学定員と入学者数のバランス調整を図りながら、時代のニーズを先取りしたデジタルビジネス分野、宇宙情報分野、臨床工学分野を設置し、今後の入学定員を確実に確保するために収容定員を変更するものである。

### 3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

教育の質の保証を行うための施策としての本学における教育課程、教育方法及び履修指導方法の内容並びに変更内容は、次のとおりであり、変更前の内容と比較して、同等以上の内容が担保されている。

#### 3-1 教育課程の変更内容

(経営情報学部 先端経営学科)

先端経営学科に「デジタルビジネス専攻」を設置し、履修上のコースとして、「IT経営コース」及び「起業家育成コース」を設置する。

21世紀の企業は、ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット）を利用して、人間の行動や自然現象に関するデータを瞬時に収集・分析し、そこから経済的な価値を引き出して、企業の付加価値を高めるデジタルビジネスを展開している。企業を成長・発展させるためには、経営学と情報技術の基本的な原理及び知識を修得するとともに、経営とICTやIoTとの関係を適切に捉えることが大切である。それらを利用して企業や社会における問題を発見し、解決できる人材を育成し、活性化に対応する。

「IT経営コース」は、従来の「e-ビジネスコース」、「IT経営戦略コース」、「e-会計コース」、「サービスマネジメントコース」を統合し、開設以来、情報学と経営学とを融合させ、社会の発展に寄与することを理念としてきたことを充実させることとする。

「起業家育成コース」は、「IT 起業家コース」の目的を明確にし、地域ブランドづくり、地域振興プランづくり、地域マップづくり、商店街活性化策検討など、地域社会のニーズに対応した活動を行うために、地域社会との連携を深め、係わりあいを促進するものとする。

以上の観点から、以下の授業科目を新設する。なお、経営情報学部、医療情報学部及び情報メディア学部にわたって学部を横断する科目を新設し、教育資源を活用して学生の知的視野を広げ、社会の活性化に対応する。

(新設) デジタルビジネス入門 (デジタルビジネス系科目)

(新設) デジタルマーケティング (デジタルビジネス系科目)

(新設) BI とビッグデータ I (デジタルビジネス系科目兼横断科目)

(新設) BI とビッグデータ II (デジタルビジネス系科目兼横断科目)

(新設) 地域連携論 (地域貢献科目)

(新設) プロジェクトトライアル (横断科目)

(新設) グローバルヘルスリテラシー (横断科目)

(既設) web ビジネス論 (デジタルビジネス系科目)

(経営情報学部 システム情報学科)

デジタルビジネス時代にふさわしい教育内容とするために、5つの履修上のコースを3つのコースに集約する。

従来の「ロボット・組み込みコース」と「観光情報コース」のシステム開発系の部分は、「システムデザインコース」と統合し、「システムエンジニアコース」とする。また、従来の「観光情報コース」のデータ分析系の内容は、「コンピュータサイエンスコース」と統合し、「情報科学コース」とする。「宇宙情報コース」は、内容を充実させ、「宇宙情報専攻」とする。「ロボット・組み込みコース」と「観光情報コース」の授業科目は、新しいコースにふさわしい授業科目（例えば、組み込みシステム基礎、ロボット概論、モバイルシステム開発演習など）を残し、他（通信プロトコル演習、観光学入門、国際観光論など）は廃止した。コースを絞ることにより、応用分野の見直しは行ったが、本学科の基本的な方針である「情報科学の深い知識を修得するとともに、それらの知識を応用して物事を正しく分析し、新しいことを提案できる能力などを身に付けて、多種多様な応用分野でその中心を担い得る高度な情報システムエンジニアを育成する」ために、必要十分な科目構成となっている。

これ以外の科目では、内容が重複するのは、科目の統合を行った（例えば、Web アプリケーション応用とデータベース、実践プログラミングを統合し、データベースとした）。デジタルビジネス時代に必要な科目として IoT 技術総論、BI とビッグデータ I,II、セーフウェアなどの科目を追加した。

(医療情報学部 医療情報学科)

医療情報学科の履修上のコース内容についての変更を加える。変更理由として、本学科は社会的ニーズ及び地域貢献を目的としたコ・メディカル育成を主眼として教育を展開しているが、多様化する医療社会に対する人材育成の観点より改革を実施した。具体的には、学科内の2専

攻に変わりはないが、現行の「メディカルマネジメント専攻」及び「メディカルサイエンス専攻」を「メディカルヘルスケア専攻」及び「臨床工学専攻」に変更する。

更に、コース数は現行の5コース（診療情報管理、医療経営、健康情報科学、医療情報テクノロジー、医療情報サイエンス）から3コース（診療情報管理、健康情報科学、臨床工学技士）に集約し、集約的な教育実践を行い質の高い人材を育成することを目標とする。

専攻及びコースの変更に伴い、両コースに共通した共同講義を意識したカリキュラム編成を行うとともに、各コースの専門性を意識した多様な領域に対応可能な知識の修得を目的とした新たな講義内容を設定する。

（情報メディア学部 情報メディア学科）

情報メディア学部情報メディア学科は、その設置趣旨に掲げた人材育成の目的を達成するため、多様な学生に対応するため初年度教育の強化を図る。

また、多様な領域にわたって専門知識の修得を図るため学部間の協力を強める学部横断型科目としてプロジェクトベース科目の強化を図った。更に、複雑化する現代社会の要求に対応するため既存の9つの履修上のコースに加え1コースを追加し、きめ細かな対応が可能な教育課程としている。なお、上記に掲げるような対策を行うことで、多様な領域にわたる知識の修得を適切なコースで可能にしたことから、学生の興味と学習進度に応じた履修指導の徹底を図ることとしている。

本学科の履修上のコースは、次のとおりである。

メディアデザイン専攻

- ・映像・アニメーションコース
- ・ウェブデザインコース
- ・グラフィックデザインコース
- ・3DCGコース
- ・メディアアートコース

メディアテクノロジー専攻

- ・メディアプログラミングコース
- ・ゲームプログラミングコース
- ・モバイルアプリケーションコース
- ・インターネットアプリケーションコース
- ・インターネットセキュリティコース

### 3-2 教育方法及び履修指導方法の変更内容

教育方法及び履修指導方法については、収容定員減に伴う変更はない。

授業は講義、演習、実験、実習をもって行い、インターシップ、ゼミナール、卒業研究等の充実を図り、効率的で効果的な授業を目指す。また、ICTの利活用を積極的に取り入れ、更に現在に引続き高度な内容を分かりやすく繰り返して学ぶことができるeラーニング授業等も組み入れて教育効果のある授業を展開する。

## (2) 各学科の履修指導方法

各学科とも学科の目的、育成すべき人材を明確にし、基本から発展までの知識を修得し、問題の発見・魁傑・提案に必要な能力を育成する。また、効果的に教育を学生たちが受けることができるようにコース制を採用する。

なお、コースは履修モデルであり、学生が学ぶ内容を指導するものである。引き続き、各学科において、将来を見据えた履修ガイダンスの強化、専門講義やゼミナールを通じた修学指導の徹底を実践する。なお、臨床工学コースにおいては国家試験合格を意識した指導強化を図っていく考えである。

## 3-3 教員組織の変更内容

先端経営学科及びシステム情報学科の収容定員減に伴う教育組織の変更は、特にない。また、医療情報学科については、教員組織の変更はない。

情報メディア学科については、収容定員増に伴い、教授1名の増員により対応する。

なお、平成29年度収容定員の変更に伴う大学設置基準上の必要教員数は78名となる。これに対して平成29年度開設時の教員数は86名である（いずれも学長を除く。）。